

令和7年4月2日

「藍場浜公園西エリアにおける新ホール早期整備プラン」の概要について

(1) 新ホールの位置づけ

新ホール整備の効果を県下全域に拡大させるため、「県立施設」として施策を展開

(2) 県市協調・役割分担

県市協調体制により、新ホール整備を進め、それぞれの役割を担う

【役割分担】

- ・ 県は、「県立施設」として、設計・工事などを実施
- ・ 県は、旧市立文化センター及び旧市中央公民館、旧県青少年センターの一部機能を新ホールに集約
- ・ 市は、県と連携し、新ホールの早期整備を推進

(3) 基本目標

徳島県の文化振興・創造発信の拠点や、地域の発展を支える「新しい広場」として、文化芸術の持つ力により、感動や希望を生み出す。

また、新ホール開館後は施設使命に基づき様々な取組みを進め、人や地域に新しい変化をもたらし、県民に親しまれ、誇りとなる施設を目指す。

(4) 施設使命

- ①新たな文化芸術を創造し、魅力を発信する
- ②優れた文化芸術を鑑賞する機会を提供する
- ③未来を担う人材を育てる
- ④文化芸術を通じて、県民の幸福や生きがいを創出する
- ⑤文化芸術と人をつなぎ、県都のにぎわいづくりに寄与する

(5) 建設用地

- ・ 建設用地は、「藍場浜公園西エリア」とする
- ・ 地下杭や奈落等が必要であり、「藍場浜公園地下駐車場」の一部を解体
- ・ 設計にあたっては、地下駐車場解体の影響を最小限にとどめる工夫を行うとともに、新ホール周辺からの円滑な動線接続について検討
- ・ 幅広い交通手段に対して配慮し、駐車場は、渋滞対策と施設利用促進の両面を考慮して、自家用車による来館のニーズに応える

(6) 具体的な事業展開

- ①文化創造・魅力発信事業
- ②鑑賞機会提供事業
- ③次世代人材育成事業
- ④交流促進・地域連携事業
- ⑤貸館事業

(7) 県内文化施設等との連携

隣接のあわぎんホールとの連携を図り、施設使命の達成に向けた事業を展開

(8) 管理運営の基本的事項

- ・ 未来に向けた持続可能な施設運営を実現する
- ・ 施設や事業の魅力を誰もが享受できる機会を提供する

(9) 運営手法

- ・ 指定管理者制度の採用を念頭に、あわぎんホールとの連携を見据えた効率的な運営手法を検討
- ・ 早期の段階から、管理者視点の意見を反映できる仕組みを検討

(10) 施設整備の基本的事項

- ・ オーケストラピットや花道などの高い機能性を備えるとともに、メンテナンスのしやすさをあらかじめ見据え、中長期的視点を持って整備
- ・ 藍場浜公園、新町川などの周辺景観との一体性を図りながら整備
- ・ あわぎんホール敷地の一体利用により、円滑な搬入動線を確保

(11) 施設構成と機能

①大ホールエリア

- ・ 客席（１５００席程度を下限、良好なサイトラインと高品質な音響を実現）
- ・ 舞台（主舞台は、幅１８ｍ程度×奥行１８ｍ程度）
- ・ 楽屋（収容人数は、８０～１００人程度）
- ・ リハーサル室（舞台・楽屋に近接）
- ・ ホワイエ など

②文化創造エリア

- ・ 多目的スタジオ（練習、小規模発表会等の多目的な利用可）
- ・ 活動室（４室以上、会議利用も可） など

③交流・にぎわい創出エリア

- ・ エントランス
- ・ 交流ロビー など

④管理業務エリア

- ・ 管理事務室
- ・ 外構 など

(12) 施設整備における留意事項

現在利用されている公園機能に配慮し、オープンスペースを効果的に活用

(13) 整備手法

設計段階から施工業者のノウハウの設計への反映が期待でき、発注に要する期間の短縮が見込まれる「設計・施工一括発注方式」のうち、敷地特性を踏まえた最適な工法の選定など、整備期間中に事業者との綿密な交渉が必要となることを踏まえて、「設計交渉・施工タイプ」を念頭に進める。

(14) 整備費

- ・ 工事費について、調査モデルプランでは「約１５４億円」を見込んでおり、この金額をベースに、調査後の資材・労務費の影響等を考慮して算定
- ・ 工事費のほか、設計費、設計意図伝達費・工事監理費、備品費を別途計上
- ・ 事業者に独自技術やノウハウの積極的な活用を求め、コスト縮減に努める

(15) 整備スケジュール

- ・ 調査モデルプランでは、設計に「約１年６ヶ月」、本体工事に「約２年１０ヶ月」を見込んでおり、事業者選定に「約４ヶ月」を要する
(工程間には契約手続き等の期間が別途必要)
- ・ 地下駐車場の効率的な解体など、事業者に独自技術やノウハウの積極的な活用を求め、工期短縮と早期整備に努める